

パネル・ディベートの実際－準備からマッチへ－

パネル・ディベートの準備

2つの論題が決まったところで、パネル・ディベートの準備に入りました。まずは、チーム編成です。ロールプレイング的な役になりきれるよう、生徒と話し合っ以下のように、それぞれの立場を決めました。一人一人の生徒が、どの立場でパネル・ディベートを行うかは、生徒の希望に任せました。

告知	親戚・家族・本人・医師・友人	原子力	電力会社・一般国民・政府・地域住民
----	----------------	-----	-------------------

チームが決まったところで、早速、次のような流れでパネル・ディベートの準備に入りました。

(1) 根拠とそれを支える情報の収集・選択

- ① 情報カードを活用する。
  - 生徒に情報処理活用への意欲をもたせる。
  - 生徒同士の情報交換を活発にさせることで集団思考の質を高める。
  - カード作成により自分の考えが活かされるという満足感を与える。

〈情報カード〉 論題：告知 立場：医師側 分類：反対尋問  
 患者さんの病気の具合によると思う。ノイローゼ気味の人とか、告知してパニックとかになったら大変だから。でも、しっかりしている人とか、言っても大丈夫そうな人には絶対言うべき。言わなかったら、あとでうらまれそう。

- ② 情報収集のポイントを示す。
  - 論題について、辞書、百科事典、専門書などで調べる。
  - 新聞、雑誌などの関連記事をコピーしておく。
  - 家族や友人に質問し、そこで得た情報をまとめておく。

(2) 立論等の論理の組み立て

- ① 立論の書き方パターンを提示する。
  - 論理的な作文の「型」を理解させる。

(3) 発表資料と原稿メモの作成

- ① 大きめの付箋紙やカード、ルーズリーフを用意する。
- ② 図表やグラフなど、一目でわかるものを用意させる。

(4) チーム内での練習

- ① チーム内で練習（模擬パネル・ディベート）を行わせる。

準備ができたところで、パネル・ディベート・マッチを行いました。今回は、生徒にとっては初めてということで、次の理由から授業者が司会を務めました。

- 生徒にとって初めての経験であるため、様々なハプニングが予想される。その際、臨機応変に対応する。
- 生徒に司会の力をつけさせるために、授業者が優れた司会の手本を示す。

パネル・ディベート・マッチ

告知の論題では、本人をはじめ親戚や家族、医師や友人のそれぞれの立場から意見が述べられました。簡単には結論が出ない難しい問題ですが、生徒は豊富な資料をもとに、それらを裏付けとして論の強化を図っていました。

原子力の論題では、電力会社や政府の考えと一般市民や地域住民との間に、温度差のようなものが垣間見られました。エネルギー問題と相まって、中学3年生が社会的な視点から物事を考えるにはよいテーマとなりました。